

1. シラバス

	家庭経営学（家庭経済学を含む）	単位数	2
開講年次	3年	学期	後期
担当教員	井元 りえ		
科目分類	専門科目（教科に関する科目）		
選択／必修	必修（家庭科教職コース）	授業形態	講義
授業の到達目標	現代の経済社会における諸問題に対応した家庭経営のあり方について、自分の考えを発表できる。		
授業の概要	家庭生活における意思決定が社会全体に及ぼす影響について理論的及び事例的に検討し、海外の家庭経営のあり方も参考にしながら、現代の経済社会における諸問題に対応した家庭経営のあり方を探る。		
授業の内容 (注) 1回目および2回目で、原論の内容を扱っているので、その内容を少し詳しく挙げた。	①生活のとらえ方（家政学の成立と理念、生活とは何か、生活構造の視点、生活分析の視点） ②家庭生活と家庭経営（家庭生活の要素、家庭経営の主要概念-意思決定や価値意識など、家庭経営の枠組み） 3 生活時間と家庭経営 4 生活におけるお金と様々な価値 5 家庭経済と消費 6 家計の収入と支出 7 消費者行政 8 多様化する販売と消費者問題 9 家庭経営と情報 10 消費者教育の内容 11 消費者教育の方法 12 NPOの役割と家庭経営 13 ドイツの家庭経営 14 イギリスの家庭経営 15 まとめ		
テキスト	使用しない。授業時に適宜資料を配布する。		
参考文献	(社)日本家政学会家政学原論部会監修『家政学 未来への挑戦』建帛社(2001) 松島千代野『増補版 家政学原論集成』学文社(1992) 原ひろ子編著『生活の経営-21世紀の人間の営み-』（(財)放送大学教育振興会）(2001) ポウルチ・ホール・アキシン共著、丸島令子・福島由利子共訳『家族の意思決定—生活の質の向上のために—』家政教育社(1985)、他		
評価方法・基準	授業時の演習や意見発表、及びレポートを総合的に評価する。		

2. 授業の特徴や授業を行うにあたっての工夫

① 栄養学部において

- ・ 本学は、主に予防医学の視点で「栄養学」と「保健学」に基づき教育研究をしている「栄養学部」であり、「家政学」の視点はほとんど持っていない。
 - ・ しかし、家庭科教諭（中学校・高等学校一種）のコースでは、教科「家庭科」の学問的基礎であり、教科の特質を捉えるためにも、家政学の視点を教えるべきだと考え、科目「家庭経営学（家庭経済学を含む）」及び「環境と暮らし」の講義の中で、家政学原論の内容を含めている。
- 「教育方法及び技術」でも家政学原論の内容を扱いたいと考えている。

② ・「家庭経営学（家庭経済学を含む）」は、学部の家庭科教諭コースの3年生対象（約20名）である。

- ・「環境と暮らし」は、二部の家庭科教諭コースの3,4年生対象で選択科目である。全15回のうち、第1回目で原論の内容を扱っている。人間と環境との関連を考えさせる際に、リチャーズの理論やヒューマンエコロジーについての解説を含めている。

③福岡工業大学 社会環境学部において（平成17年度～平成21年度）

- ・ 「ライフスタイルと環境」、「人間環境学」、「環境教育論」、「生活環境論」を教えていたが、家政学の歴史、ヒューマンエコロジー、価値意識と意思決定などを含めていた。
- ・ 男子学生が8割、女子学生が2割であったが、「家政学」の学問としての重要性について両者から共感を得た。

④立教大学 社会学部において

- ・ 非常勤で「生活環境論」を担当している。第1回目で、ライフスタイルと環境との関係について、家政学の視点から解説している。

⑤現代社会において環境問題への対応を迫られるなかで、家政学系の学部以外での「生活環境論」の開講も多い。その際に、人間と環境との関係を考える理論として、「人間エコシステムモデル」は学習者にとって解り易い。また、リチャーズについて紹介することにより、家政学の学問的特性の真の理解を促すこともできる。家政学系の学部以外でも、環境関連の科目の中で家政学原論の内容を教え、広めることが可能なのではないだろうか。